

草加市の概要

草加市は、埼玉県の東南部、都心から 20 km 圏内に位置し、市域の南部を東京都足立区に接している。近世初頭に日光街道が整備され、江戸幕府の公認を受けた草加宿が正式に伝馬宿と認められてからは、参勤交代や日光社参、さらには一般旅人の往来で大きく賑わった。また、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅で草加宿に歩みを残したのをはじめ、伊能忠敬・渡辺崋山等多くの文人らの通行により「街道文化」ともいえる独特な文化を創り出した。明治 32 年に東武鉄道が開通すると、次第に停車場を中心とした街として新たな発展を遂げ、それまでは農業中心であった市域に、草加せんべいやゆかた、皮革業等の特色ある地場産業が栄えた。

昭和 33 年 11 月 1 日、人口 3 万 4878 人で県下 21 番目に市制を施行した。市域は、東西 7.24km、南北 7.6km、総面積 27.42km²。昭和 37 年の東武伊勢崎線と地下鉄日比谷線の相互乗り入れや、当時マンモス団地といわれた松原団地の造成等により、昭和 38 年に人口が 5 万人を突破し、昭和 43 年には、県下 8 番目の 10 万都市になった。東京近郊という立地条件の良さも相まって、昭和 50 年代後半から人口は急激に増えた。平成 15 年 12 月には国から特例市の指定を受け、平成 16 年 4 月 1 日に全国で 40 番目の特例市に移行した。平成 16 年 5 月 1 日現在、人口は 236,578 人、世帯数は 97,369 世帯である。

交通は、市内のほぼ中央を東武伊勢崎線が縦断しており、「新田」「松原団地」「草加」「谷塚」の 4 駅を利用して、北千住・浅草・日比谷方面、越谷・春日部・伊勢崎方面へと通じている。道路は東武伊勢崎線を挟んで、国道 4 号草加バイパスと県道足立越谷線（旧日光街道）・県道越谷八潮線（産業道路）が南北を貫き、市の北部を平成 4 年に開通した東京外環自動車道と国道 298 号が、中部を主要地方道さいたま草加線・草加流山線が、南部を主要地方道松戸草加線・県道川口草加線がそれぞれ東西に横切っている。

市の産業は、草加せんべい等の伝統産業による特産品のほか、枝豆やくわい、小松菜が特産物として有名である。また、昭和 41 年に県造成の「草加八潮工業団地」が完成し、紙パルプ、薬品など水を多量に使用する工場等 50 社以上が事業を行なっている。商業は市内に約 30 の商店街があり、主に東武伊勢崎線の 4 駅を中心に形成されているが、核となるのは「AKOS（アコス）」と名付けられた北館と南館からなる草加駅前ビルで、草加駅東口再開発事業により平成 4 年 2 月に完成した。地元専門店と丸井、イトーヨーカドーが出店し、県東部最大規模の商業ゾーンとなっている。

草加市は現在、第三次草加市総合振興計画基本構想として「快適都市草加」を目指し、「快適な環境」「安心と安全」「地域の共生」を掲げ、草加駅西口に防犯パトロールステーションを設置したり、平成 17 年度中の開設を目標に（仮称）高年者福祉センターを建設する計画を遂行している。また、平成 16 年 7 月 20 日には新市立病院が開院予定で、バス路線を新たに開設する等、時代が要請するまちづくりに取り組んでいる。

平成 16 年 6 月 2 日作成